

さわらび

2020. 10. 26 No. 24 文責：大塚

驚きや感動とともに



10月23日(金)、本校を会場として「南極クラス」を開催しました。ミサワホーム総合研究所の井熊英治さんを講師に迎えての100分間は、驚きや感動とともに

子どもたちが自分自身を振り返るひとときとなりました。

昭和基地付近では、最低気温は-45.3℃、風速は60mを越えます。そんな環境での生活は、どれも私たちの日常では考えられないものです。白夜と極夜をはじめとする自然現象。ペンギン等の動物の生態。そして何より、参加者の1人1人が観察した2万年前の氷。井熊さんから、「色は？ においは？ どんな音がする？」と問いかけられて、水を注いで溶ける音を聞いて「プチプチ……」。とても貴重な体験となりました。

また、限られた人数でお互いの仕事を手伝いながら過ごす長期間の生活。1人1人のちがいを認め合い関わること、つながることは子どもたちの学校生活、これからの社会生活にも重なる部分でした。南極観測隊の仕事、生活、自然の様子等々をお聞きした「南極クラス」ですが、改めて振り返ると、それは講師の井熊さんの生き方に触れた時間でもあり、夢や志について考えるキャリア教育の1コマでもありました。

【井熊さんから～夢の実現について～】

夢はいくつ持っていてもいいし、変わってもいい。でも、今いる場所で咲かすことを忘れてはいけない。今いる環境の中で、明日、1か月後、1年後になりたい自分をかなえようとしているか。それをかなえていくことで、次の夢が見つかる。そして、今、中学生のみんなが学校で学んでいるのは、自分自身の可能性の枠を広げるためだと考えてほしい。



しまんとマスクプロジェクト

四万十市社会福祉協議会から、マスクの寄付をいただきました。地域の方が1つ1つ気持ちをこめて作ってくれた手作りマスクです。ありがとうございます。



「はるかのひまわり」の種を送りました

多くの皆様にお世話になって育てたはるかのひまわりの種がたくさん収穫できたので、その一部を交流している2か所に送りました。

■大阪市立白鷺中学校

昨年度の修学旅行でつながりができ、防災A.L.Tという活動をしている中学生と交流してきました。はるかのひまわりの種に、生徒の手紙、「藤岡マップ」の取組などの写真を入れて送りました。

■はるかのひまわり絆プロジェクト事務局

7月に本校を訪問してくださった、事務局の松島さんのところに種の里帰りとして送りました。取組の経過や藤岡中の様子を書いた文章と写真を同封しました。



【さっそく、松島さんからのお礼の手紙が届きました。】

里帰りの御礼

はるかのひまわり絆プロジェクト
松島俊哉

この度は、立派なはるかのひまわりの種の里帰りを送付いただきありがとうございます。また、生徒さんが努力され制作された「藤岡マップ」は、故郷の大切な「モノやコト」が詰まった故郷の皆さんの素敵な心の地図になったことだと思います。

藤岡の地で起こった洪水などの災害でさえも、この地を肥沃させた歴史の一頁であったこと。また、この地で生活をされてきた、先代の皆さんの故郷への想いやその努力を受け継がれ、文化や歴史の存在があるのだということを肌で感じ学ばれてきたであろうことが、よく理解できました。必ずその想いは、残したい歴史として何百年も受け継がれていくのだと思います。

皆さんの卒業まで、また藤岡中学校の歴史を閉じるときまで生活を謳歌され、友人や先生方、地域の皆さん、もちろん家族とともに、有意義な時間を過ごしてください。藤岡中学校が創った歴史を忘れず、故郷への思いを胸に、次の一歩へと進んでください。

またいつかお会いできるのを楽しみにしています。それまで、共に学び続けましょう。ありがとうございます。



※生徒・教職員にと、キーホルダーとポストカードも同封されていました。